

---

# マグロの学校

渡辺 透

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マグロの学校

### 【Nコード】

N0648R

### 【作者名】

渡辺 透

### 【あらすじ】

水族館にて、特にマグロを見ると、私はいつも色々なことを学びます。

水族館に行きたい。  
マグロに会いたい。

この感情は分かりやすく言うと、ガラスのようなもので  
毎日生活している中で、抑制心や不条理感が、徐々に徐々に水滴と  
なつてガラスの底に溜まっていく。

そして、水が表面張力を越え、ガラスから溢れ出た時  
その時私は水族館に行きたくなる。

排水をしなければ、水は浸水し続け、心を腐らせてしまうから。

マグロに会いたいと言つものにも理由がある。

彼らは、私にとっての師である。

マグロは常に泳ぎ続けなければ死んでしまう。  
回游する間、絶えず酸素を取り込むためである。

「我々、マグロは常に泳ぎ続ける。それは何故か。単純だ。

“死にたくないから”

である。

しかし、貴様ら人間はどうだ！！

時代が進むにつれ、死に対する概念は薄れ、そういう奴等に限って  
まるで必死に生きようとはしない。  
簡単に“死んでやる！”などとほざく。

恥ずかしいとは思わないのか！  
何故、必死に生きようとはしない！！

貴様らの親、その親、またその親と  
人間達の多くに我々の先祖が、その生のために命を捧げてきた。  
最早、貴様らの血肉は我々で構成されていると言っても過言ではな  
い。

しかし、現実はどうだ。

“生きたい者が、生を意識しない者に命を捧げる”

とんだ御笑い草だ。

そんな話があつてたまるか、畜生！！」

この心持を聞き、少しでも改心する者が居るのならば  
我々は切実に願う。

“ 生きる。精一杯に生きる ”

と。

まるで我々が回遊し続けなければならないように、

果たさなければならぬ、その光に向かって盲目に走り続ける。

それが、我々マグロが人間に与える

唯一の報いである。

そして、私は再び思ってしまう。

嗚呼、マグロに会いたい

と。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0648r/>

---

マグロの学校

2011年10月8日19時03分発行